

心が決める

2021.5.26

「旅人の話」を紹介する。

ある町がありました。一人の旅人がその町にやってきました。町の入り口の門のところに一人の老人が座っていました。

旅人は聞きます。「おじいさん、この町はどんな町ですか」おじいさんは聞きます。「あなたが今までいた町はどんな町でしたか」旅人は答えました。「いやあ、前にいた町は嫌な人ばかりでろくな町じゃなかったよ」「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じです」

また別の日に旅人が来ます。「おじいさん、この町はいったいどんな町ですか」おじいさんは聞きます。「あなたがこの前にいた町はどんな町でしたか」「私が今までいた町は、すばらしい町で、人々は親切で、あんなによい町はありませんでした」「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じです」と答える。

これは逸話である。二人の旅人が来た町は同じである。結局、この逸話の言いたいことはどんなことか。環境というものは「その人の心が決める」ということである。我々が何のために学ぶのかというのは、環境をよりよく作るためにという側面がある。結局、環境を作るのはその人なのである。その人の心が環境を決める。環境に左右されるのではなく、環境を作れる人間になりたいものである。

ある方の言葉を紹介する。

環境が人を作るということにとらわれてしまえば、人間は単なる物、単なる機械になってしまう。人は環境を作るからして、そこに人間の人間たる所以がある、自由がある。すなわち主体性、創造性がある。だから人物が偉大であればあるほど、立派な環境を作る。人間ができないと環境に支配される。

私は、今までは、常々環境が人をつくると言ってきた。だから、環境が大切だと考えてきた。だが、これからは、次のように修正しようと思う。「環境は、その人の心が決める」である。同じ環境であっても、その人の心の持ちようによって変わってくる。

そうであれば、自分の環境に甘んじず、環境をつくっていく人になったほうがよい。これまでの私の考え方には、半ばあきらめのようなものがあつた。反省である。環境では決まらない。あなたがどう考えるかだとなれば、話はだいぶ変わってくる。

このようなことは、多くのことに当てはまる。生徒にも教員にも当てはまる。何事も考え方次第である。心が決めるのである。